

2023年7月14日(金)

活動隊員：寺田英子、三橋睦子

1. 活動日時

令和5年7月14日(金)10:00-19:30

2. 活動場所

田主丸中央病院および関連施設、田主丸地区の障がい者福祉施設、竹野小学校体育館（避難所）

3. 被害状況

2023年7月10日、九州北部に「線状降水帯」が発生し、記録的な大雨に見舞われた。主な被害状況は以下の通りである。（2023年7月14日14:00現在）

- ・人的被害：死者11名、行方不明3名、重傷4名、軽傷10名
- ・住宅被害：全壊15棟、半壊44棟、一部損壊148棟、床上浸水612棟、床下浸水1,481棟

総務省消防庁 令和5年6月29日からの大雨等による被害及び消防機関等の対応状況（第25報）

4. 天候

くもり時々雨 最高気温30℃ 最低気温26℃ 湿度75%

5. 活動の実際

10:00 久留米駅を車で出発

12:30 田主丸中央病院に到着。周辺道路は災害廃棄物運搬車両による渋滞が発生していたため、通行に支障を来した。総務部長の案内により院内1F2Fを視察。1Fは床上40cm～80cm程度の浸水被害があったが、職員とボランティアの活動により院内の泥は除去されていた。当初は水が使えない状況であったため、DMATの協力により透析患者（90名ほど）を近隣の2施設に振り分けて搬送した。院内清掃は進んでいたが、今後は業者による消毒を依頼するとのことである。来週火曜日から診療が1部再開予定である。職員は初めての被災経験であり疲労が蓄積してくる時期でもあるため交代で休めるようにすると管理者からの発言があった。

12:50 田主丸病院に隣接する介護老人保健施設サンライズ聖峰の視察。副施設長の案内で浸水当初の状況などを伺った。「夜間帯の浸水で、1Fの患者を2Fに避難させた。同時にエレベーターが停止し、当日は水は出たが翌日から濁って飲料水が確保できなくなった。また隣接するグループホームから18名をリハビリスペースに受け入れた」とのこと。ボランティアが毎日50人くらい入っており片付けは進んでいる様子であった。床のじゅうたんは高圧洗浄を行い、いたるところに大型扇風機が回っていたが湿度が高く館内全体が湿っぽい状態であった。自宅が被災した職員もおりシフト調整をして休めるようにしている。水道水が濁っているため市から配給された水を給水バッグに入れて各部署に配っていた。泥水による汚染のため床や壁は洗浄だけでなく除菌ワイプによる清掃が必要であると考え、汚泥用の除菌ワイプを提供した。

- 14:00 障がい福祉サービス事業所ステップを視察。大量の泥のかき出しが昨日すんだばかりで、いまだ床が泥で汚染されており土足で作業をされていた。トイレも履き替えなしで泥で汚染されていた。トイレ使用後の手洗い環境が不備であったため、流水での手洗いを促すために液体せっけんを提供した（写真1）。井戸水、水道水ともに使用できないため備蓄のペットボトルの水を使っている。温泉施設だけは仮復旧し、入所者、職員、ボランティアなどに入浴がふるまわれている。3日ぶりに入浴できたと喜ばれているという。入所者は2Fで生活されており閉塞感のために精神的な影響が懸念された。周辺環境は砂埃が風に舞い上がり、咽頭痛を訴える職員もおり、肺炎等も懸念されるため、室外の作業中においてもマスクを着用するように提案した。床置き của タオルの汚染や掃除道具の不足があり、人員不足、職員の疲労も重なっているように見受けられた。
- 17:00 竹野小学校体育館（避難所）視察。周辺は土石流が発生した今回最も被害の大きかった地区である。道路には大量の大きな岩や木が積まれており、工事車両が土埃を立てて往来していた（写真2）。
避難所となっている体育館内は個別のテントが並びプライベート空間が確保されており、空調も適切に管理されていた（写真3）。炊き出しの暖かい食事やパン、野菜など十分な量が提供されている様子であった（写真4）。食料は近隣の被災住民らも取りに来ておられたが、猛暑の中の片付け作業で疲労感が強い様子であった。
- 19:30 活動終了

6. 考察

1) 被害の特徴

想定外の線状降水帯が明け方5時の人手の少ない時間に発生している。その後も風雨や雷雨が断続的に続きスムーズに復旧できていない状況である。気候的にも猛暑が続き、湿度も高く復旧にあたる人々がより疲弊している。また、汚泥による汚染であることから、乾燥した粉塵が舞い上がっている。粉塵による二次的健康障害を認め、早急の予防策が必要である。

2) ライフライン

各施設、飲料水の確保に人手を要していた。またほとんどの洗濯機が浸水により故障して、遠方のコインランドリーで膨大な量の洗濯を行っている状況である。

3) ニーズアセスメント

医療ニーズはほとんどなかった。厨房が浸水して機能していないため、適切な食事が提供できていない。また洗濯機など電化製品が故障したため、全体として衣・食・住のニーズが満たされていない状況である。

7. 課題

- 1) 汚泥による二次感染のリスク
- 2) 職員など支援者の疲弊による健康障害
- 3) 医療関連以外の業者等の連携や対応の遅延

8. 参考写真



写真1



写真2



写真3



写真4